

2004 医療安全推進週間

11月21日(日) ▶ 11月27日(土)

シンポジウム

医療安全に資する報道とは

医療安全は医療者だけの努力によって構築できるものではありません。
患者や報道関係者を含めた協力・協働と、そのために必要な情報の共有が前提となります。
患者・市民・報道関係者は、医療者にどのような情報提供を求めているのか。
そして医療者側は、個人情報保護を担保しつつ、どのように対応をしていけばよいのか。
これらの検討を通じ、医療の質向上に繋がる報道のありかたを考えるシンポジウムを開催します。

日時 平成16年11月17日(水)
14:00～16:00(受付・開場13:30)

会場 日本看護協会ビル B2F JNAホール

対象 200名 一般市民、報道関係者及び医療関係者

参加費 無料

主催 日本看護協会

後援 厚生労働省、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、
日本病院会、日本医療法人協会、日本精神科病院会、
全日本病院協会、全国自治体病院協議会

「医療安全推進週間」とは

厚生労働大臣により、医療関係者の意識向上、医療機関等における組織的取組の促進、医療関係団体における取組の促進等を図るとともに、国民の理解と認識を深めることを目的として、2001年度から「患者の安全を守るための医療関係者の共同行動(Patient Safety Action:PSA)」が提唱されるとともに、「医療安全推進週間」(毎年11月25日を含む1週間)が設けられました。

日本看護協会

<http://www.nurse.or.jp/>

2004 医療安全推進週間シンポジウム

日時 平成16年11月17日(水) 14:00~16:00(受付・開場13:30)

会場 日本看護協会ビル B2階 JNAホール

プログラム

14:00-14:05 開会挨拶 日本看護協会 副会長 古橋美智子

14:05-15:55 シンポジウム

《テーマ》 『医療安全に資する報道とは』

《コーディネーター》 相原 佳子(弁護士)

《シンポジスト》 ●加藤 良夫(南山大学大学院 教授、弁護士)
●堀内 玉乃(患者家族)
●唐澤 秀治(市立船橋医療センター 医療安全管理室長)
●伊川 順子(岐阜県厚生連岐阜北厚生病院 看護部長)
●江刺 正嘉(毎日新聞 社会部編集委員)
●後藤 克幸(中部日本放送 報道局報道部プロデューサー)

15:55-16:00 閉会挨拶 日本看護協会 常任理事 楠本万里子

講師紹介

■コーディネーター

相原 佳子(あいばら よしこ)

愛媛大学法文学部法学科卒業。昭和53年から58年まで法務省勤務。平成3年弁護士登録。平成7年に独立し、元札幌高裁長官である野田愛子弁護士、同期の石黒弁護士と女性3名で野田・相原・石黒法律事務所を開設。著書に「高齢者の生活・介護の支援の手引き」(共著、新日本法規)。現在、東京法律相談連絡協議会・医療事故相談検討チーム担当委員、日弁連高齢者・障害者の権利に関する委員、第一東京弁護士会少年法委員会委員長を務める。

■シンポジスト

加藤 良夫(かとう よしお)

南山大学法科大学院教授(医事法)、弁護士。1977年医療事故相談センター開設、1990年医療事故情報センター設立、同理事長。弁護士として30年以上医療過誤訴訟事件の解決に取り組むとともに、被害者救済・患者の人権確立・医療事故防止の活動を行っている。著書に「患者側弁護士のための実践医療過誤訴訟」(日本評論社・共著)など。

堀内 玉乃(ほりうち たまの)

医療事故で家族を亡くした患者遺族。事故直後からの積極的な原因究明、具体的な事故防止策の実施や組織としての安全管理体制の構築等、家族側の指摘や要望を踏まえた施設側との継続的な話し合いにより、和解に至る。現在は日本ALS協会における活動に参画し再発防止活動に取り組んでいる。

唐澤 秀治(からさわ ひではる)

市立船橋医療センター脳神経外科部長、同医療安全管理室長。リスクマネジメントは医療従事者だけで行うものではなく、患者・家族との協働が不可欠という認識の下、その具体的な参画方法として「患者・家族のリスクマネジメント20カ条」を考案、患者への説明を基本として患者の安全確保に努めている。

伊川 順子(いがわ じゅんこ)

岐阜県厚生連岐阜北厚生病院看護部長。1998年7月に同院で発生した異型輸血事故の経験を経て、日本看護協会「医療事故発生時の対応～看護管理者のためのリスクマネジメントガイドライン」(2002年発行)の作成に携わる。「こうして事故は起こった一岐阜北厚生病院異型輸血事故の検証—もう二度と繰り返さないために」(日総研出版・岐阜北厚生病院編著)。

江刺 正嘉(えさし まさよし)

毎日新聞社会部編集委員。交通事故・犯罪被害者キャンペーンで2000年日本新聞協会賞と日本ジャーナリスト会議(JCJ)賞受賞。同年から医療問題取材班を結成し、東京女子医大病院の心臓手術ミス・隠ぺい事件やリピーター医師の調査報道を展開。ハンセン病や精神医療の問題にも取り組む。

後藤 克幸(ごとう かつゆき)

中部日本放送報道局報道部プロデューサー。1999年、第27回日本集中治療医学会看護部会で「病院内コミュニケーションと患者の権利」について、日米の現状を報告。名古屋大学と愛知医科大学の医療事故調査委員会学外委員。医療事故の実態に迫るルポルタージュ「NO MORE!医療事故」(風媒社・監修共著)。

申込方法

①郵便番号、②住所、③氏名、④職業、⑤電話番号および、「医療安全推進シンポジウム参加希望」と明記の上、往復はがきまたはFAXにて、〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会 会員サービス部 医療・看護安全対策室(FAX:03-5778-5602)までお申込ください。尚、定員になり次第締め切らせていただきます。

2004 医療安全推進週間シンポジウムに参加を希望します。

① 郵便番号:

② 住所:

③ 氏名:

④ 職業:

⑤ 電話番号:

※ご記入後、切取って往復はがき、またはFAX送信票にお貼りください。

お問合せ・交通のご案内

日本看護協会 会員サービス部 医療・看護安全対策室

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2

TEL:03-5778-8552 FAX:03-5778-5602

【交通のご案内】

- JR・山手線「原宿」駅下車、表参道口 徒歩10分
- 地下鉄・銀座線/千代田線/半蔵門線「表参道」駅下車、A1出口徒歩5分
- 地下鉄・千代田線「明治神宮前」駅下車、4番出口徒歩5分

←品川	原宿駅	新宿→
	表参道口	
明治通り	地下鉄 明治神宮前駅・4番出口■	八千代銀行
←渋谷	日本看護協会■	表参道 新宿→
	地下鉄 表参道駅・A1出口■	みずほ銀行
青山通り		↑六本木 赤坂→
←渋谷		